



県平和委員会第2回常任理事会報告

活動のかたちや仲間づくりは形式にこだわらないで!

文化の日の11月3日(金)、第2回常任理事会を水戸共同ビルで開催しました。オンラインを併用し、15人中10人が出席。日本平和委員会事務局次長の岩月康範さんもオンライン参加しました。招待者入室やマイク接続などに手間取り、開始時間が遅れ、ご迷惑をお掛けしました。理事会もオンラインを併用するため、反省点になりました。

■戦争する国づくりを許さない! 平和大会パンフでの学習を各地域で!

最初に学習会を設け、「2023年日本平和大会in鹿児島学習パンフレット」を篠原陸事務局長がポイント解説しました。今年度、日本平和大会が鹿児島市で実施するのは「九州・沖縄・南西諸島の軍事要塞化」が急速にすすみ、とくに「沖縄を再び戦場にするな」「馬毛島基地建設反対」等の運動を肌で感じてもらい、「大軍拡」「戦争国家づくり」反対の世論を広げることにあります。

大会参加者は2人、開会式オンライン視聴者は2人、茨城厚生連労働組合は団体として視聴します。次年度は今年度よりも大会参加者の確保のためにも宣伝活動の工夫と声掛けが必要になります。

■1,800口数を超える賛同を集めよう! 新聞意見広告のとりくみ確認!

今回の常任委員会は「拡大事務局会議」と位置づけ、当面の課題、組織財政問題に絞って議論しました。新聞意見広告は12月8日(金)朝日新聞朝刊に掲載されることに決まり、「自衛隊への個人情報提供問題」をメインテーマにして制作に取り組んでいることが増山みゆきさんから報告されました。

石井明事務局次長は、「今年度予算として110万円を組んでおり、広告掲載料など諸経費を差し引くと個人・団体

で最低でも1,800口数以上が必要になる」と説明しました。

■住民自治を守る運動! 土地利用規制法のたたかいをさらに強化!

小美玉市にある航空自衛隊百里基地は、土地利用規制法によって住民から意見を聞くこともなく「特別注視区域」に指定されようとしているが、「首長に要請書を出すとともに自治体の職員組合とも懇談しながら住民自治を守る運動を」と岩月康範さんが言及しました。

梅沢優さんは12月17日(日)に予定されている「百里基地航空祭」中止申入れをする、百里基地内のPFAS(有機窒素化合物)調査をしていないが立ち入り調査をする必要がある」と提案しました。

■コーヒー飲んでお菓子を食べながら! 会議の場所は喫茶店でもいいね!

4月以降、新たに18人の入会者を迎えました。一方、高齢等により14人が退会しています。そんな中で石岡平和の会は、日常活動によって人間関係を深め、新たに5人を迎えています。

水戸西平和の会の神原要さんは「コロナ感染症によって活動が停滞したが、2023年に再開し、この9月に総会を開いた。事務局員3人と会長を決めた。「事務局員」という「カたい」言葉を、「世話人」と言い換えたら4人が手を上げ、役員は7人になった。会議の場所も喫茶店にした。コーヒーとお菓子を食べながら行う。お茶代の半分は積立金から補助することにした」と、会議の形式や名称にこだわるのを止めようと発言しました。平和委員会が全体で毎月5人ずつ加入者を増やすことが目標です。

■平和会館の老朽化と、今後の対策も考えます!

最後に、事務局から「現在入居している平和会館の老朽化と、5万7千円の家賃が負担になることが予想される」と問題提起がありました。

協議が終わった後、イスラエルとハマス間の「戦争」の即時停止を求める声明を、長山さんが読んで提案。拍手で採択し、閉会となりました。



今年も「平和のバトン」確実に渡された！2023年「戦争と平和展」

友部平和の会

今年で17回目となる「戦争と平和展」を8月8日(火)から8月20日(日)まで笠間市立友部図書館ギャラリーで開きました。

今年の展示内容は、高校生と被ばく者が共同して描いた投下直後のヒロシマの油絵と友部平和の会作成のパネルでした。(「原爆の絵」は19枚セットのもの、自作パネルは「憲法には何が書かれているのかな、前文、第9条」など6点。)また、長机には原爆や太平洋戦争の写真集、漫画「はだしのゲン」などを置きました。

今年は、親子、孫の3代連れの何組かのご家族に出会いました。子や孫とパネルのまえで熱心に言葉を交わしている姿に、今年も確実に「平和のバトン」渡されていることを感じ、この「戦争と平和展」の役割の大切さを確信しました。10代の若い人も感想文を寄せてくれました。寄せられた感想の一部を紹介します。

「こわい」(小2)、「へいわでよかった」(小4)、「去年、修学旅行で広島に行ったとき、被爆経験のある人の話をきいた。今回、いくつかの絵を見て、その人の話がより頭の中で映像化できた。世界的に広島原爆に対して賛成派の意見(原爆を落としてよかったと思っている人)が多いイメージがあるから、日本は中立国として世界に戦争の残酷さを発信したほうがいいと思う。岸田——！」(17歳男性)、「当時を再現した絵によって、写真にはない戦争の悲惨さがひしひしと伝わってきて衝撃を受けた。経験者から高校生、そしてさらに若い人たちへと語り継がれてほしい

と感じた。教科書やニュースで流れてくる”事実”だけでなく“想い”に触れて今一度多くの人考えるきっかけになってほしい」(22歳女性)、「最近小1になる息子が戦争というワードに興味を持つようになり、色々聞いてくるようになりました。私も子供のころから何となく暗くて怖いイメージのある戦争というものを深く知ることを避けてきましたが、40才近い歳になってもっと知りたいと思うようになりました。一緒にこの企画展が見られてよかったです」。

また、19枚セットの「原爆の絵」には、制作に携わった高校生と体験者の言葉をパネルにして添付されていました。これについて次のような来場者の感想が寄せられています。「絵を描いた生徒たちのコメントとそれに対する証言者の市民の感想は一体となって原爆の非人間性と戦争の罪深さを深くえぐりだすものになっており、新しい形の原爆の悲劇の証言として私たちに強く訴えるものになっていました。感動しました」。このように「添付パネル」は、「原爆の絵」の意義をさらに深めるものになっており、去年おとしと展示した別のセットの「原爆の絵」にも、可能であればぜひ添付していただきたいものです。

《友部平和の会
稲田 敏之》



寄稿

商業施設で自衛隊関連イベントが中止に！《憲法9条の会つくば 事務局》

つくば市のある商業施設で、自衛隊関連イベントが、当方の申し入れが影響して中止となりました。これは、9月13日の新聞折り込み広告で「自衛隊がやってくる!!」として、当該商業施設に9月18日に自衛隊の軽装甲機動車を展示し、ミニ制服試着会を開催するイベントが開催予定であることを知ったため、このイベントの中止を求める申し入れを作成して、中止を働きかけたことによるものです。

イベントの告知が載った
折り込みチラシより

9月18日(祝)
北入口 10:00~15:00
自衛隊が
やってくる!!



申し入れは憲法9条の会つくばと共に、新日本婦人の会つくば支部、軍拡NO! 女たちの会茨城と連名で作成の上、14

日に先方に手渡し、かかるイベントが人間を殺傷する兵器や装備を、子どもたちがカッコイイものとして受け止める機会ともなりかねないこと、また人々が兵器や装備に無感覚になり、戦争への免疫ができることを懸念して、中止を強く訴えました。当日の申し入れには、つくば市平和委員会も参加され、申し入れを手渡しました。

その結果、16日にはイベントが急遽中止となった旨把握し、当方の申し入れを受け止め速やかに中止としたことに対し、18日に先方に謝意を示しました。茨城県内の他の地域では、祭りなどのイベントで、自衛隊の装備が展示されたケースがあるようです。また、自衛隊への入隊を促す趣旨で、今後もこのような自衛隊の装備を展示する広報活動が、県内や全国各地で企画されることを懸念しますが、あきらめないで市民が声をあげれば相手に伝わるという今回の経験を共に活かしていきたいと願います。